



# 津々浦々から APPEALS '24

## 地方自治を無視する国に 沖縄との対話を求めるアピール

### 津々浦々の会とは

2019年9月に沖縄県が主催する「玉城デニー知事トークキャラバン」の大阪講演が行われた際、デニー知事の話の聞くだけで終わるのではなく、沖縄の基地のことを自分に引きつけて、どう現状を変えていくのかを考える契機にしたいという人たちが呼びかけあい実行委員会がつけられました。

そこには、年齢層も活動フィールドも多種多様な人たちが、いろいろなつながりを通じて集まり、トークキャラバンが終わった後も活動を続けていこうと「玉城デニーさんトークキャラバン津々浦々の会」へと名称を変え、活動を続けてきました。

辺野古の基地建設工事について、ついに国は、対話での解決を求める沖縄県の声は一切耳をかさず、「代執行」という形で大浦湾側の埋め立てに着手しました。本来、「対話」とは、対等な関係の中でお互いの意見を表明し歩み寄りながら、相手の決定権を尊重し、解決策を探っていくプロセスではないでしょうか。沖縄の声を完全に無視する国の姿勢が明らかにするのは、この対話を実現させるのは沖縄だけの声ではなく、むしろ、沖縄以外の日本に住む私たちの声が必要であるということだと思います。

2024年の7月と12月に全国知事会が開催されます。この日に焦点を定め、沖縄に大きな基地負担を強いっている沖縄以外に住む人の課題として、全国津々浦々から自分の住む町で声をあげる行動を呼びかけたいと思います。地方自治の観点からも辺野古の工事を一旦止め、「辺野古唯一」ではない解決策を沖縄県との対等な対話で模索することを国に求めることを趣旨として、全国の都道府県知事、市町村長へのアピールをぜひよろしくお願いいたします。

以下のような行動を呼びかけます。この中のどれか1つでも複数でもOKです！

※それぞれの文書のひな型をHPIにアップしております。

- ★ 知事、市町村長などに宛てた署名活動
- ★ 知事、市町村長などへのアンケートや要請行動
- ★ 議会への陳情、請願
- ★ その他なんでも

※ホームページなどで随時公表していきますので、アピールされたら一報をお願いします。  
(できれば写真を添えてください)

### ★期間

おおよそ、3月～7月初旬

### ★イベントを考え中

7月の全国知事会の前に「APPEALS '24」の記者会見、もしくはシンポジウムを開催予定

「APPEALS'24」(津々浦々の会) 連絡先:

090-2087-3464(松本)  
appealsappeals24@gmail.com

<https://appeals24.com/>



「APPEALS'24」に参加していただける方

お名前(団体名):

連絡先(メールアドレス、電話番号):

ホームページやSNSなどで呼びかけ人(団体)として名前を公表してもよい

(7月頃予定の)記者会見 or シンポジウムに参加してもよい

WEBからの申し込みはこちら



第10回  
放送文化基金賞  
エンターテインメント部門  
優秀賞

第10回  
「地方の時代」映像祭  
優秀賞

第57回  
キャラクター賞  
奨励賞

# サンマデモクラシー

SANMA DEMOCRACY

を観る会



## 映画 サンマデモクラシー

米軍の占領下にあった沖縄で、ひとりのおばあが起こしたサンマの関税に関する裁判を入口に、自治権をかけて統治者アメリカに挑んだ沖縄の人々ドキュメンタリー。

市民と政府の民主主義を巡る闘いに迫ったのは沖縄テレビ。監督は『ちむくりさ 菜の花の沖縄日記』のプロデューサー、山里孫存。ナビゲーターは、うちな〜噺家 志いさー、ナレーションを川平慈英が務める。

日時 4月14日(日) 14時～、16時～

場所 神戸学生青年センター会議室 A

(阪急六甲駅南西すぐ)

参加費 1000円

共催 沖縄に基地を押しつけない行動・兵庫、神戸学生青年センター、玉城デニーさんトークキャラバン津々浦々の会

問い合わせ yusuqea@gmail.com (小宮)

沖縄の魚屋の女将玉城ウシがアメリカ政府を相手に起こした「サンマ裁判」を起点として現在に至るまで「民主主義のショーウインドー」の中で繰り広げられてきた沖縄の歴史とそこに登場する人物を多様な手法で描く「息もつかせぬ」ドキュメンタリー作品。

噺家志いさーのスピード感あふれる巧みな語りによって観客は1960年代沖縄社会のただなかに放り込まれる。アメリカの沖縄占領の歴史について私たちは言葉や文字では知っている。しかし、戦後、沖縄解放運動の中でどのような人物が闘い、挫折し、なおも闘い続けたか、具体的にはほとんど知らないことを痛感させられる。しかも、沖縄の人々の日常生活の背後に常にアメリカによる占領の構図が明白に浮かび上がることに啞然とせざるを得ない。

これほど重要な、いまだ未解決の問題を多く抱えた歴史の現実、テーマの困難さにも関わらず、このドキュメンタリーには古い資料、アニメ化した世情の記事、貴重な証拠写真、そして創作劇をも駆使した演出力の高さが感じられる。思わず笑いを漏らしてしまうユーモアをも含め、複雑な内容でありながら観客を完全に作品世界に引き込み、多くの学びと鑑賞後の一歩の歩みを与えてくれる作品だ。

アメリカの高等弁務官が沖縄に対して放った一言、「自治は神話」は現代の私たちをも強く打つ。